

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.7.25)

河口無線で行われたカートリッジの新製品の試聴会に行ってきました。この新製品というのは、ヒノエンタープライズ取扱いの ZYX 25 周年記念モデルです。ZYX の [製品ラインアップ](#) はホームページに出っていますが、このうちの一つを [上新電機の試聴会](#) で聴いて関心を持っていましたので、この記念モデルを聴いてみることにしました。

<使用機材>

今回の試聴の焦点は ZYX のカートリッジ「R100」の 25 周年記念モデルの「R100-EX」で、使用機材は以下のとおりです。



MC カートリッジ : ZYX R-100EX

フォノイコライザーアンプ : ZYX Premium ARTIZAN

プリアンプ : ラックスマン・C-900u

パワーアンプ : ラックスマン・M-900u

ベルトドライブプレーヤー : ラックスマン PD-171A

スピーカー : B&W 800Diamond



<試聴経過>

試聴はディーラー代表の日野氏の解説でZYXのカートリッジR100-EXを中心に上記の使用機器で進められました。フォノイコライザーのZYX Premium ARTIZANも初めて聴くものです。R100-EXやその元になったR100や最上級モデルのPremium OMEGA、およびARTIZANなどの解説を交えながら、順次アナログ盤がかけられました。

元になったR100は1990年発売で、一般のカートリッジは厳密に聴くとRとLで音に違いがあるので、コイルの配置や巻き方の調整で合わせているとのことで、現在もR100-02として残っているとのことです。R100-EXはコイルの線材、ボディアの材質、アーマチュアのメッキなどに改良を加えたものということです。

最初にジャズ、引き続いてシベリウスのV協奏曲がかかりましたが、一聴してワイレンジで、トランジェントが良く、特有の音色を持つことなく、ソースの内容を忠実に再現するカートリッジであることが分かりました。

さらに、ギタートリオ、1957年録音のビリー・ホリディなどもかけられましたが、古い録音でも新鮮に聴こえるようでした。

ここでフォノイコの説明があり、メニューヒンとジャズヴァイオリン奏者のセッションがかけられ、100V電源からACアダプターで電源を供給した場合と内蔵のNi-H電池駆動との違いを聴いていきました。Ni-H電池駆動の方がヴァイオリンの倍音が豊富で、クラシックヴァイオリンとジャズヴァイオリンの奏法や音色の違いが良く分かりました。

ここでカートリッジを最上級モデルPremium オメガに替えてメニューヒンとジャズヴァイオリン奏者のセッションがかけられましたが、ヴァイオリンの艶とか、奏法による微妙な音色の表現が向上することが分かりました。この最上級モデルは、素材にも拘り、設計者がやりたいことをすべてやったという製品だそうです。

この後、チェリビダッケ／ミュンヘンの展覧会の絵、マイルス・デイビス、ゲアリー・カーのコントラバスが順次かけられましたが、チェリビダッケのオケのライブ録音の生々しさには圧倒されました。

ZYXのカートリッジは国内では知名度が低いのですが、海外ではライラと並んで高い評価を受けているようで、ヒノエンタープライズのホームページにはZYXの技術的な解説が出ています。

<http://www.hinoetp.com/zyx-concept.htm>

現在、使っているものはオルトフォンとEMTですので、こういった現代的な音のするものも是非ラインアップに加えたいと考えています。